

## 世界一周ネットサーフィンでジャック・ロンドンへの旅 (No.2)

芳川 敏博 (京都府城陽市)

今年(2009年)の冬に、日本ジャック・ロンドン協会主催の「第9回J・ロンドンへの旅」にも参加させていただき、そのときの感動体験は『呼び声』No.31で紹介いたしました。その際にも、インターネットは次のような点でとても役に立ちました。1) 関係者とのメールでの依頼、2) ホテルやフェリーの予約、3) 訪問地やレストランの情報収集、などです。再度の「J・ロンドンへの旅」参加とインターネットでの情報収集で、余裕を持って副リーダーの1人として任務を果たし、自分自身も旅を違う視点からも楽しむことができました。

『呼び声』No.30で上記タイトルのNo.1を掲載していただきました。そこでは、1) 日本一周旅行、2) 世界一周旅行の準備編、3) 世界一周旅行(アメリカ編1)、4) 英文和訳サイト、について述べ、ロンドンとロンドンの作品研究においてインターネットが役に立つかということの説明をしました。今回は、前回取りあげました *The Jack London Online Collection* にも劣らないアメリカのロンドン研究サイトを紹介します。

### 世界一周旅行(アメリカ編2)

その興味深いホームページは *The World of Jack London* (<http://www.jacklondon.net/>) で、David A. Hartzell によって運営されています。2,000ページにも及ぶ興味深い内容が盛りだくさんです。このホームページは主に、1) ロンドンに関する記事・書物、2) ロンドンの作品に関するページ、3) ロンドンの農園に関するページ、4) その他、から構成されています。あまりにも膨大な情報量で、すべてを紹介することは不可能ですので、それぞれの項目ごとに私が興味深いと思うものを取り上げてみましょう。

(2009年6月29日アクセス)

#### 1) ロンドンに関する記事・書物

A : *Life and Jack London* by Rose Wilder Lane(1886-1968)

1917年10月から1918年5月まで *Sunset* 誌に掲載されたロンドンの死後最初に発表された伝記です。そこには、ロンドンがどん底の状態から夢を持ち必死に生き抜いた強さだけでなく、想像力や情緒、誇りももっていたと説明されています。ロンドンが当時どのようにアメリカ人に受け入れられていたかを知る重要な資料だと思います

B : *The Book of Jack London* by Charmian K. London

ロンドンの愛妻 Charmian がロンドンについて豊富な手紙や会話などを基にしてイラストや写真付きで紹介している1921年に出版された貴重な著作です。Volume I と Volume II で40章にもなる文章は、*Mate Woman* でしか分かりえないロンドンの深層、特に、ハワイでの晩年についても叙述されています。

C : *In the Steps of Jack London* by Dr. Vil Bykov

著者はロシアのロンドン研究家で、この本はロシア語で書かれたものを英語に2003年に翻訳されたのです。この41章からなる伝記は、著者がロンドンの住んだ場所や子孫、

知人などを訪問してまとめたもので、外国人によるロンドン研究として興味深いものだと思います。

## 2) ロンドンの作品に関するページ

### A : *The Complete Short Stories of Jack London*

1993年に Stanford University Press から出版されたロンドンの197篇の短篇が収められている本（3巻から成る）を基に、アルファベット順に並べられています。この中には、今まで知られていないような作品が数多くあり、ロンドンの作品の全体像を把握するするうえで、とても役立つことでしょう。

<http://www.jacklondon.net/writings/ShortStories/>

### B : Jack London: The Stories

上記のロンドンの全短篇集（実際にはあと5つの見つかっていない作品と、ロンドンが死の前日まで書いて、Charmian が完成した“Cherry”：後年“Eyes of Asia”という作品があります）の作品を Dale L.Walker が20章にわたり、あらすじやその作品について解説をしています。短篇をテーマごとに紹介しているので、ロンドンの人生と作品を分類して考えるのに重宝します。<http://www.jacklondon.net/writings/shortFiction/part1.html>

## 3) ロンドンの農園に関するページ

### A : Jack London's Ranch Album

Ranch（農園）、Cottage（ロンドン夫妻の家）、Wolf House（狼城）、Museum（博物館）、などが写真と説明文などで紹介されています。

### B : Short Video London Ranch

4分のビデオ作品で、ロンドンの農園にある上記の施設が解説付きで紹介されており、商品版はインターネットから購入できます。

## 4) その他

### A : ミステリー

Wolf House Burning は Dale L.Walker の本の一部で、「狼城」のなぞに迫っており、The Jack London Death Controversy は、いろいろな人がロンドンの死についての意見を述べています。

### B : Special Interviews

Earl Labor をはじめ15名の著名なロンドン研究家が、アメリカ文学におけるロンドンの評価をはじめ、ロンドンの作品についての誤解などについて答えています。

### C : Jack's Recipes と Charmian's Recipe

Jack's Recipes は Dan Wichlan が Roast Duck や Italian Spaghetti、Hawaiian Salad をはじめロンドンのお気に入りの料理を7つ紹介しています。実際に料理して、ロンドンの好きな味の研究をしてみたいですか。Charmian's Recipe は1925年に Harper & Brothers から出版された *Favorite Recipes of Famous Women* からの引用で、写真付きで Charmian の好きな料理である、とてもおいしそうな Corned Beef And Cabbage が紹介されています。